

第 17 回福島問題予備研究会議事録

松井

1.日時 9月2日(金) 14:30-17:30

2.場所 化学工学会 応接室

3.出席者 横堀、小林、郷、橋本、鈴木、松田、松井 (順不同)
(中尾、戸井田、中代 欠席)

4.議事内容

(1) 松田氏からの話題提供

最初に研究組織 IRID の組織論から話があり、**LLP(limited Liability Partnership)** ---有限責任事業組合---の形態をとっている。

- ① 放射性物質を含むスラリーの扱いとしての浮遊粒子分離槽概念の説明があった。アレバ社の沈澱方式は沈降濃縮物の放射線強度が高くその扱いが難しく 3 か月で運転中止。SALLY などの固液吸着方式に切り替えられた。
- ② 活性汚泥処理の微生物処理でトリチウムの除去 トリチウムは殆ど水の形態にとっており微生物の処理で除去できるとは一般論として受け入れがたい。
- ③ 凍土壁 新聞等の報道によれば、現在 10%が漏れているとのこと。コンクリートの防水遮断ではコンクリートは大半は水を原料とし凝固剤としてポリマを使用する。このポリマで防水効果を強めている。この発想は土建の発想ではでてこない。
- ④ 無人化などにレーザーの利用を廃炉対策で検討する研究がすすめられている。
(原子力開発機構)
- ⑤ 第 4 次産業をリードするスーパー認定事業所、IoT(internet of things)の利用、オープンイノベーション例えば装置材料の腐食をリアルタイムで検査して情報を直接取り込む。化学現場で無線で情報を飛ばすと安価に設備診断が可能であるが、安全の問題がある。松田氏は出身会社が NACE(国際腐食学会組織)に入っておりその情報はキャッチできている。

(2)橋本氏の情報提供

- ⑥ 環境放射能除染研究発表会が福島であり予稿集を入手した。オフサイトベースでの**除染、減容、計測等について、および陸、海、空での幅広い汚染物質の追跡研究の発表。**

実行委員は福島大学、工学院大学、堀場製作所、アトックス(原発メンテナンス)、ゼネコン等々から構成。東京、福島で交互に開催される。後援は化学工学会を含む 28 団体。竹下先生、佐藤先生(福島大学)が座長として参加されている。

(3)小林顧問からの福島事故対策検討委員会報告

- ・小林顧問が出席。委員会に対する意見書を出席して口頭で説明した。
- ・トリチウム問題はタスクフォース終了する。濃縮することはリスクが増大するので

- やらない。タンクをもつまで持ち続ける。
- ・年会(化学工学会)シンポジウム実施する。
 - ・今後のとりまとめ
- 長谷部委員長の提言とりまとめについてに対して目次に対する意見を 9/15 までに
小林顧問にメールで提出すること。

(4)次回開催日予定

10/11、小林顧問に集まった提言目次について討議
次々回は鈴木氏よりの情報提供をいただく。

以上